

水1クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅢB(AB302)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)の習得を通して、もてなしについて考える力を高めることを目的とする。茶会の組み立て方や各役割について理解し、茶道文化ⅡB履修学生を迎えた茶会を実施することで、茶道におけるもてなしを目指す。							⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	中風炉点前と本勝手点前の違いや茶事について理解を深め、説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	「濃茶点前(中風炉)」や「濃茶点前(隅切棚)」の流れについて理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績は55%とし、逆勝手の道具の置き合わせの変化と点前の順序の違いを理解しているかなどから評価する。授業態度を30%とし、稽古への積極性を評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、2回目と12回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>点前については、濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。授業の中では、茶会の組み立て方を学び、各役割の仕事を把握し、理解する。その実践の場として、茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、茶会を実施・運営し、おもてなしをする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年)</p> <p>参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶会の流れ』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年)</p> <p>指定図書：嶋内 麻佐子著『別れの茶会』長崎短期大学特色GP関連事業(2009年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶会実施に向けて、茶会の内容を理解し、自分の役割に責任を持って遂行すること。 ・授業内の濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)実施の為、その準備として濃茶点前の内容を確認しておくこと。 ・点前の修得だけでなく、茶の行事や地域で開催される他流の茶会にも積極的に参加することで、幅広い茶道の文化を学んでもらいたい。 							

水1クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・ シラバス説明 ・ 濃茶点前復習	これまでに学んできた濃茶点前を復習する。 (嶋内)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 81～93 を読み、 予習・復習をする。
2	・ 濃茶点前(中風炉) ・ 小テスト	濃茶点前(中風炉)を確認し、概要を理解する。 (嶋内)	濃茶点前の流れを整理する。
3	・ 濃茶点前(中風炉)稽古①	濃茶点前(中風炉)の復習。 (嶋内)	濃茶点前(中風炉)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
4	・ 濃茶点前(中風炉)稽古②	濃茶点前(中風炉)の復習。 (嶋内)	濃茶点前(中風炉)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
5	・ 濃茶点前(隅切棚)	濃茶点前(隅切棚)を確認し、概要を理解する。 (嶋内)	濃茶点前の流れを整理する。
6	・ 濃茶点前(隅切棚)稽古①	濃茶点前(隅切棚)の復習。 (嶋内)	濃茶点前(隅切棚)の完成を目指し、自主的な稽古をする。
7	・ 濃茶点前(隅切棚)稽古②	濃茶点前(隅切棚)の復習。 (嶋内)	濃茶点前(隅切棚)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
8	・ 茶会に向けて	茶会に向けて役割決めをする。 (嶋内)	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
9	・ 茶会に向けて	ミニ茶会に向けて、役割毎に練習を行う。 (嶋内)	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
10	・ 茶会	茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、もてなしの実践をする。 (嶋内)	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
11	・ 茶会	茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、もてなしの実践をする。 (嶋内)	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
12	・ 茶事について ・ 小テスト	茶事におけるもてなしについて学ぶ。 (嶋内)	茶会と茶事の違いについて予習・復習する。
13	・ 初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 (嶋内)	日本の正月について予習・復習する。
14	・ 松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄(松芳)先生の遺徳をしる。 (嶋内)	教科書 pp. 7～12 を読み、 予習・復習する。
15	・ 点前確認	濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)の流れがどこまで理解されているか確認する。 (嶋内)	濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)の完成を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅢB(AB302)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)の習得を通して、もてなしについて考える力を高めることを目的とする。茶会の組み立て方や各役割について理解し、茶道文化ⅡB履修学生を迎えた茶会を実施することで、茶道におけるもてなしを目指す。							⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	中風炉点前と本勝手点前の違いや茶事について理解を深め、説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	「濃茶点前(中風炉)」や「濃茶点前(隅切棚)」の流れについて理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績は55%とし、逆勝手の道具の置き合わせの変化と点前の順序の違いを理解しているかなどから評価する。授業態度を30%とし、稽古への積極性を評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、2回目と12回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。							
授業の概要							
点前については、濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。授業の中では、茶会の組み立て方を学び、各役割の仕事を把握し、理解する。その実践の場として、茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、茶会を実施・運営し、おもてなしをする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶会の流れ』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 指定図書：嶋内 麻佐子著『別れの茶会』長崎短期大学特色GP関連事業(2009年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶会実施に向けて、茶会の内容を理解し、自分の役割に責任を持って遂行すること。 ・授業内の濃茶点前(中風炉)や濃茶点前(隅切棚)実施の為、その準備として濃茶点前の内容を確認しておくこと。 ・点前の修得だけでなく、茶の行事や地域で開催される他流の茶会にも積極的に参加することで、幅広い茶道の文化を学んでもらいたい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・ シラバス説明 ・ 濃茶点前復習	これまでに学んできた濃茶点前を復習する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 81～93 を読み、 予習・復習をする。
2	・ 濃茶点前 (中風炉) ・ 小テスト	濃茶点前 (中風炉) を確認し、概要を理解する。 (安部・柳井)	濃茶点前の流れを整理する。
3	・ 濃茶点前 (中風炉) 稽古①	濃茶点前 (中風炉) の復習。 (柳井)	濃茶点前 (中風炉) の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
4	・ 濃茶点前 (中風炉) 稽古②	濃茶点前 (中風炉) の復習。 (柳井)	濃茶点前 (中風炉) の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
5	・ 濃茶点前 (隅切棚)	濃茶点前 (隅切棚) を確認し、概要を理解する。 (安部・柳井)	濃茶点前の流れを整理する。
6	・ 濃茶点前 (隅切棚) 稽古①	濃茶点前 (隅切棚) の復習。 (柳井)	濃茶点前 (隅切棚) の完成を目指し、自主的な稽古をする。
7	・ 濃茶点前 (隅切棚) 稽古②	濃茶点前 (隅切棚) の復習。 (柳井)	濃茶点前 (隅切棚) の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
8	・ 茶会に向けて	茶会に向けて役割決めをする。 (柳井)	各役割 (亭主・半東・接待・水屋・客) の動きについて予習・復習をする。
9	・ 茶会に向けて	ミニ茶会に向けて、役割毎に練習を行う。 (柳井)	各役割 (亭主・半東・接待・水屋・客) の動きについて予習・復習をする。
10	・ 茶会	茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、もてなしの実践をする。 (安部・柳井)	各役割 (亭主・半東・接待・水屋・客) の動きについて予習・復習をする。
11	・ 茶会	茶道文化ⅡB履修学生を客として招き、もてなしの実践をする。 (安部・柳井)	各役割 (亭主・半東・接待・水屋・客) の動きについて予習・復習をする。
12	・ 茶事について ・ 小テスト	茶事におけるもてなしについて学ぶ。 (安部・柳井)	茶会と茶事の違いについて予習・復習する。
13	・ 初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 (安部・柳井)	日本の正月について予習・復習する。
14	・ 松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄 (松芳) 先生の遺徳をしる。 (安部・柳井)	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。
15	・ 点前確認	濃茶点前 (中風炉) や濃茶点前 (隅切棚) の流れがどこまで理解されているか確認する。 (安部・柳井)	濃茶点前 (中風炉) や濃茶点前 (隅切棚) の完成を目指す。